

作成日 2009年8月31日

改訂日 2021年12月10日

## 安全データシート (SDS)

### 1. 製品及び会社情報

製品名 : 強化フィラー  
会社名 : メーカー株式会社  
住所 : 〒189-0003 東京都東村山市久米川町 5-33-11  
電話番号 : 042-393-2345  
FAX番号 : 042-395-3253  
担当部門 : 技術部  
緊急連絡先 : 042-393-2345  
製品の種類 : 合成樹脂エマルジョン塗料  
用途 : 外装用下地調整材

### 2. 危険有害性の要約

#### GHS 分類

物理化学的危険性 : 分類できない  
健康に対する有害性 : 区分外又は分類できない  
環境に対する有害性 : 区分外又は分類できない

#### GHS ラベル要素

絵表示、注意喚起語 : なし  
危険有害性情報 : なし  
注意書き : GHS ラベル要素に関わる注意書きはなし

### 3. 組成及び成分情報

単一化学物質又は混合物の区別 : 混合物

化学物質名	CAS No,	含有%	備考
二酸化チタン	13463-67-7	0.2	
重質炭酸カルシウム	471-34-1	64.4	
マイカ	12001-26-2	1.2	
アクリル系樹脂	—	9.3	
水	7732-18-5	22.8	
その他	—	2.1	

#### 4. 応急措置

##### 目に入った場合

- ・直ちに大量の清浄な水で15分以上洗う。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。まぶたの裏まで完全に洗うこと。
- ・直ちに医師の診断を受けること。

##### 皮膚に付着した場合

- ・付着物を布にて素早く拭き取る。
- ・汚染された衣類をとりのぞくこと。
- ・大量の水及び石鹼又は皮膚用の洗剤を使用して十分に洗い落とす。溶剤、シンナーは使用しないこと。
- ・外観に変化が見られたり、刺激・痛みがある場合、気分が悪い時には医師の診断を受けること。

##### 吸入した場合

- ・蒸気、ガスなどを吸い込んで、気分が悪くなった場合には、空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。症状が改善しない場合は、医師に連絡すること。

##### 飲み込んだ場合

- ・誤って飲み込んだ場合には、安静にして直ちに医師の診断を受けること。
- ・嘔吐物は飲み込ませないこと。
- ・医師の指示による以外は無理に吐かせないこと。

#### 5. 火災時の措置

##### 消化剤

- ・全ての消火剤

##### 使ってはならない消化剤

- ・情報なし

##### 特有の消化方法

- ・周辺火災に対応して、消火活動を行うこと。

#### 6. 漏出時の措置

##### 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

- ・作業の際には適切な保護具（保護手袋、保護マスク、エプロン、ゴーグル等）を着用する。目、皮膚への接触やガスの吸引を避ける。
- ・屋内では換気をしっかり行う。
- ・屋外の場合には、できるだけ風上から作業を行う。

- ・周辺を立ち入り禁止にして、関係者以外を近づけないようにして二次災害を防止する。

環境に対する注意事項

- ・河川への流出等により、環境への影響を起こさないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法・機材

- ・漏出物は、密封できる容器に回収し、安全な場所に移す。
- ・付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処置すること。
- ・スコップ、ウェス等で回収する。大量の漏出には盛土などで囲って流出を防止する。
- ・水での洗浄なども、河川等への流出、環境汚染を引き起こす恐れもあり注意する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- ・換気の良い場所で取り扱う。容器はその都度密栓する。
- ・皮膚、粘膜、又は着衣に触れたり、目に入らぬよう保護具を着用する。
- ・取扱後は手・顔等はよく洗い、休憩所等に手袋等の汚染保護具を持ち込まない。

保管

- ・凍結、直射日光を避け、涼しい場所、換気の良い場所で容器を密閉し保管する。
- ・保管時の温度は 5℃以下あるいは 35℃以上にならないようにする。
- ・盗難防止のために施錠保管する。
- ・子供の手の届かないところに保管する。

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度：設定されていない。

許容濃度：シリカ；0.03 mg/m<sup>3</sup> 日本産業衛生学会

酸化チタン；10 mg/m<sup>3</sup> ACGIH (1992)

鉱油；5 mg/m<sup>3</sup> ACGIH

設備対策：特別な対策は必要ない。

保護具

- ・呼吸器の保護具：作業を行う場合には、適切な保護マスクを着用すること。
- ・手の保護具：有機溶剤又は化学薬品が浸透しない材質の手袋を着用すること。
- ・眼の保護具：取り扱いには保護メガネを着用すること。
- ・皮膚及び身体の保護具：取り扱う場合には、皮膚を直接曝させないような衣類を着けること。また化学薬品が浸透しない材質であることが望ましい。

衛生対策：作業中は飲食、喫煙をしない。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状态

- ・ 形状：ペースト状
- ・ 色：白色
- ・ 臭い：わずかにアクリル臭
- ・ pH：約 9.0～10.0
- ・ 融点／凝固点：データなし
- ・ 沸点：データなし
- ・ 引火点：データなし
- ・ 発火点：データなし
- ・ 爆発範囲：データなし
- ・ 蒸気圧：データなし
- ・ 蒸気密度（空気=1）：データなし
- ・ 比重（密度）：約 1.7
- ・ 溶解度：水に分散する
- ・ オクタノール／水分配係数：データなし
- ・ 分解温度：データなし

10. 安定性及び反応性

安定性：通常の状態においては、安定。

危険有害反応可能性：通常の状態においては、反応性なし。

避けるべき条件：高温、凍結を避ける。

混触危険物質：データなし

危険有害な分解生成物：データなし

11. 有害性情報

急性毒性（経口）

- ・ アンモニア水：区分 4

皮膚腐食性及び刺激性

- ・ アンモニア水：区分 1A

眼に対する重篤な損傷性又は刺激性

- ・ アンモニア水：区分 1
- ・ 2,2,4-トリメチル-1,3-ペンタンジオール モノイソブチレート：区分 2B

特定標的臓器毒性（単回ばく露）

- ・ アンモニア水：区分 2（呼吸器系）

特定標的臓器毒性（反復ばく露）

- ・アンモニア水：区分 2（呼吸器系）

## 12. 環境影響情報

水性環境有害性（急性）

- ・アンモニア水：区分 2
- ・2, 2, 4-トリメチル-1, 3- ペンタンジオール モノイソブチレート：区分 3

水性環境有害性（慢性）

- ・アンモニア水：区分 2
- ・2, 2, 4-トリメチル-1, 3- ペンタンジオール モノイソブチレート：区分 3

## 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

- ・廃棄においては、関係法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
- ・廃塗料、容器等の廃棄物は許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理する。
- ・容器、機械措置等を洗浄した排水等は、地面や排水溝へそのまま流さないこと。
- ・排水処理、焼却等により発生した廃棄物についても、廃棄物の処理及び清掃に関する法律及び関係する法規に従って処理するか委託すること。

汚染容器及び包装

- ・空容器は内容物を完全に除去後、関係法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
- ・許可を受けた産業廃棄物処理業者と委託契約をして処理をする。

## 14. 輸送上の注意

共通

- ・取扱い及び保管上の注意の項の記載に従うこと。
- ・容器の漏れの無いことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れ防止を確実にすること。

国内規制

- ・国連番号：該当せず
- ・指針番号：該当せず
- ・陸上輸送：消防法、労働安全衛生法、毒劇物法に該当する場合は、それぞれの該当法律に定められる運送方法に従うこと。
- ・海上輸送：船舶安全法、海洋汚染防止法に定めるところに従うこと。
- ・航空輸送：航空法の定めるところに従うこと。

国際規制：輸出先の法規に従うこと。

## 15. 適用法令

労働安全衛生法

名称等を通知すべき危険物及び有害物

酸化チタン(IV)、鉱油

## 16. その他の情報

主な引用文献

- ・原材料メーカー発行の SDS
  - ・GHS 対応 SDS・ラベル作成ガイドブック〔混合物(塗料用)〕改訂第3版  
(日本塗料工業会)
  - ・容器イエローカード(ラベル方式) 塗料用マニュアル 改訂版  
(日本塗料工業会)
  - ・独立行政法人 製品評価技術基盤機構 (NITE)
- 
- ・危険・有害性の評価は必ずしも充分ではないので取扱いには充分注意してください。
  - ・この安全データシートは、当社の製品を適正にご使用いただくために必要で、注意しなければならない事項を簡潔にまとめたもので、通常の実施を対象としたものです。
  - ・本製品は、この安全データシートをご参考の上、使用者の責任において適性に取り扱ってください。
  - ・ここに記載された内容は、現時点で入手できた情報やメーカー所有の知見によるものですが、これらのデータや評価は、いかなる保証もするものではありません。また、法令の改正及び新しい知見に基づいて改訂されることがあります。
  - ・本製品を当社が認めた材料以外のものとの混合、当社が認めた仕様以外の特殊な条件で使用する場合には、使用者において安全性の確認を行って下さい。